

要旨

高知県の道の駅における県内利用客増加に向けて

—他県で人気のある道の駅を参考に—

高知工科大学 経済・マネジメント学群 1250517 松岡来実

指導教員 那須清吾

研究背景

道の駅は、買い物や食事を楽しめる施設として消費者から人気があり、特に農作物直売所は地域と農業復興に寄与している。一部の道の駅では、地域資源を活用した新商品開発が注目されている。高知県には約 26 か所の道の駅が登録されており、道の駅を通じて県民が高知県の魅力を理解する契機となるが、他県の道の駅と比較した際、さらなる発展の余地がある。

研究目的

本研究の目的は、高知県内の道の駅における利用客の動機や目的を調査し、県内客の利用促進要因を明らかにすることである。また、各道の駅が重視する機能や直面する課題を探り、県内利用客増加に向けた施策の提案とその実現に必要な仕組みについて考察する。

研究方法

日本の人気道の駅ランキングをもとに集客要素を抽出し、消費者行動論体系や先行研究を参考に、施設機能と連動した観光動機モデルを作成する。高知県内の 5 か所の道の駅を対象に、計 100 人以上の県内客および駅長に対してインタビュー調査を実施し、モデルの妥当性を検証する。また、インタビュー調査の結果をもとに因果マトリクスを作成し分析する。

分析結果

因果マトリクスの分析結果から、道の駅の立地条件は休憩や買い物目的の利用に重要であり、県内客は品揃えの良さや農作物の新鮮さを、県外客は地域特有の珍しい商品を求める傾向が明らかになった。特産品や農作物の販売は休憩を促進する相乗効果を生むことから、休憩を目的とした利用との組み合わせが重要であり、買い物や飲食との連動が効果的である。

考察・結論

高知県内の道の駅には体験型の要素が少なく、インスタ映えを意識した景観とは異なる立地が多い。しかし、県内客はこれらを重視しておらず、こうした特徴が利用促進において不利にはならないことが明らかになった。また、県内客は買い物や休憩、飲食を目的として訪れ、立ち寄りやすい立地条件が重視される。各道の駅の立地に応じ、地域の食材を活かした限定商品開発や品揃え強化、利用客への配慮、生産者と消費者の交流促進などが求められる。これらの施策と併せてイベントの開催や効果的な PR を行うことで利用促進につながる。